

令和5年度 第1回 S L復元検討委員会 議事録

1. 開会

柘植まちづくり企画部長

2. 委嘱式

市長より委嘱書の交付

3. 自己紹介

各委員等

4. あいさつ

○恵那市長

- ・遠方からお越しいただいた人もおり、この会議に参加いただき感謝申し上げます。
- ・あらゆる立場の方にお越しいただいたので、多方面からS Lの復元について話し合っていたきたい。
- ・平成26年度、私は当時のS L復元の担当課長だった。当時から社会情勢も大きく変わった。リニアが通る前になんとかS Lを復元したいと思うが、焦らずに客観的に冷静に判断していきたい。
- ・ぜひ皆さんが納得いくように結論を出して頂きたい。

5. S Lの復元に向けた歩み

○事務局

- ・資料1-1、資料1-2説明

○明知鉄道

- ・私自身は明知鉄道沿線に住んでいるが、昔はあおなみ線に勤めていたこともあり、当時のS L運行の経験がある。
- ・S Lは「お守り」に大変手間がかかるものである。東海汽缶様からもアドバイス頂きながら、経済波及効果も確認していきたい。

○東海汽缶

- ・当社で復元を目指しているC56は、ローカル線向けの汽車である。バック運転もできる特徴がある。
- ・ボイラーの調査までは進んでいるが、ボイラーの痛みはあまりなかった。車輪やブレーキも今後整備していくところだ。

○恵那市観光協会長

- ・私も子供のころに、S Lに乗った記憶がある。
- ・「お守り」は大変だが、そうした味わいがS Lの良さだと思う。

6. 議案

第1号議案 役員の選任について

- ・会長に観光協会長、副会長に地域自治区会長会議長が選任

○会長

- ・多士済々の委員会である。
- ・S Lはリニアとは全く反対の乗り物である。その実現に向けて、頑張っていきたい。
- ・恵那市の目玉になることは間違いない。ただし、いろんな角度から検討し、前のめりになることなく、市民の総意を得てやっていきたい。
- ・私は明知鉄道の役員も担っており、明知鉄道の赤字に対する不満は聞いている。明知鉄道は収支を公開している一方で、平行している国道は多くの税金で維持されているが、数字が見えない。数字が見えてしまうために意見が出ている。S Lにおいても赤字以外の効果がある。そうした効果を踏まえて考えたい。
- ・また観光の視点で、目的地として来てくれる観光地づくりを目指したい。それにS Lは有効と考えている。単なるイベントで走らせるのではなく、生活路線としての位置づけも確保していきたい。

○副会長

- ・市長からの話の通り、慌てないことが大事だ。まずは気運の醸成が必要だ。
- ・沿線の地区の意見をきちんときいて、夢で終わらせず実現していきたい。

第2号議案 令和5年度事業計画（案）について

○事務局

- ・資料3説明

○商工会議所

- ・SDGs 推進にむけて、環境負荷への影響も整理してもらいたい。

○事務局

- ・ご指摘については部会の中で検討していきたい。

○恵南商工会

- ・部会の運営について教えてほしい。

○事務局

- ・各組織の実務担当の人に出てきてほしいと思っている。

○明知鉄道連絡協議会

- ・当協議会では、鉄道利用者を増やす取り組みをしている。ぜひ推進したい。

○中部運輸局鉄道部監理課

- ・各委員から話がある通り、S Lが運行すれば課題を解決するわけではない。S Lをふまえてどう地域づくりをするかが大事だ。

○中部運輸局鉄道部技術・防災課

- ・S Lを動かすことに重点を置いているようだが、その後のメンテナンスもかなり大事である。今動かしている気動車に比べてS Lは重いため、軌道の補強も必要かもしれない。維持管理もきちんと検討してもらいたい。
- ・軌道の補強について、昔はS Lが走っていたので問題ないと思うが、当時から橋をかけ替えたなど変わった部分があればきちんと見てほしい。

○中風運輸局岐阜運輸支局

- ・コストに目が行きがちだが、波及効果を含めてトータルで考えてほしい。

○岐阜県恵那県事務所

- ・イニシャルコストが億円単位でかかることが分かった。そのうえで、ランニングコストもかかってくる。さらに人材育成も必要である。これらを賄える資金調達を見極めないといけない。中津川市もクラウドファンディングもやっているようなので参考にしてほしい。

○恵那市議会

- ・個人としては夢のある施策なので賛成したいが、議長の立場としてはきちんと議会の意見を踏まえたいと思う。

○ソフトバンクCSR本部

- ・社員としては、二次交通の確保や広報戦略を協力していきたい。そのうえで、いろいろなアイデアを提供していきたい。

○東海汽缶

- ・私が長年SLと関わってきた中で、人材育成が一番大事であると思っている。費用がかかるのはその通りだが、その費用をうまく扱える技術者をいかに育てるか。昭和最後～令和はじめに生まれた人たちに技術を伝えることになる。
- ・大井川鉄道での経験でも、ベテランなら終点まできちんと辿り着けるが、新人が一人入るだけで終点まで行かないこともある。

○明知鉄道

- ・近年では人材育成はとても厳しいものがある。当社ではSLに興味を持っている者が1人いるので、しっかり育てていきたい。
- ・SLとは別に生活路線としての維持も考えていきたい。

○明知鉄友会

- ・明知鉄道で動かしているSLにずっと携わってきた。
- ・小学生から「汽笛を鳴らしてほしい」「電気をつけてほしい」という期待をずっと聞いてきた。明智のSLは状態が良かったので、対応することができた。
- ・SLは「インチねじ」を使っており、これは今日本で使われていない。また、SLはしっかり油をささないと動かない。このように非常に手間がかかる。しかしその分、人間味がある。費用さえかければ直すことはできるはずだが、人材育成が大事だ。
- ・明智駅ではSLの体験乗車を行っているが、四国や千葉から来る人もいる。そうした注目度をふまえて、地域の活性化につなげていきたい。

○会長

- ・事業計画について、異論はないか。

○委員一同

- ・拍手で了承

7. その他

○事務局

- ・第2回検討会は、1月に大井川鉄道の視察を行いたい。